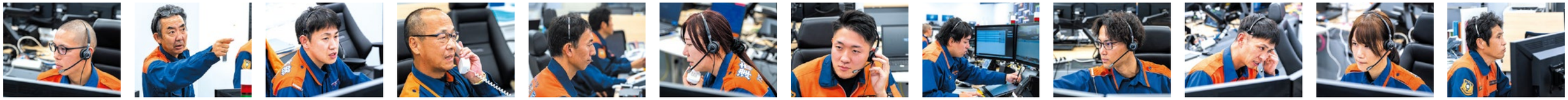

令和8年4月 正式運用を開始

三重中央消防指令センターとは？

津市と鈴鹿市、亀山市の隣接する3市が共同で通信指令業務を行う施設で、管内の119番通報を受け付けます。通報を受けると通報者の位置情報が把握できる最新システムなどを備える消防の心臓部となります。

共同運用のメリットとは？

01 応援・受援体制の強化

これまで、3市の境界付近で発生した災害は、各市の指令センター間で電話などによる応援出動要請を行ってきました。しかし、今後は3市の災害情報が一元管理されることから、必要に応じて応援出動の指令を直接出すことができます。

3市のデータ

	人口	世帯数	面積
津　市	27万人	13万世帯	711㎢
鈴鹿市	19万人	9万世帯	195㎢
亀山市	5万人	2万世帯	191㎢
合　計	51万人	24万世帯	1,097㎢

02 整備費用の低廉化

3市が共同運用することでスケールメリットが生まれ、整備費用を低廉化することができました。また、元利償還金の7割が地方交付税で補填（ほてん）される国の財政支援「緊急・防災減災事業債」を活用できるようになり、実質負担額の軽減につながりました。

整備にかかる費用と財源

津市単独運用の場合
13億6,000万円
H25-26の整備の際にかかった費用

- 実質負担額 4億4,000万円
  - 交付税算入外30%分：合併特例事業債、一般財源
- 国の財政支援 9億2,000万円
  - 交付税算入70%分：合併特例事業債、国庫補助金

共同運用の場合(津市分)
14億8,000万円
3市で28億1,000万円(鈴鹿市…9億円、亀山市…4億3,000万円)

- 実質負担額 4億7,000万円
  - 交付税算入外30%分：緊急・防災減災事業債、一般財源
- 国の財政支援 10億1,000万円
  - 交付税算入70%分：緊急・防災減災事業債

前回より物価や労務単価などが高騰し、津市単独での整備の場合、21億7,000万円となる試算でした

03 効率的な人員配置

津市単独での運用と比較すると共同運用では半数の人員配置で運用が可能になります。削減した人員は再配置することで地域全体の消防力を強化します。

配置人員数

津市単独運用の場合
22人

50% DOWN

共同運用の場合(津市分)
11人
別部署へ再配置が可能となり
消防力が向上!!

マンガ風に解説 119通報の流れ

詳細な聞き取り
詳細な情報を聞き取り、出動中の部隊へ無線等で伝達

出動指令
システムが災害の種別に応じた出動車両を自動的に編成し、出動を指令

地点の確認と出動準備の指令
出動する位置を確定させ、消防署に出動準備の指令を放送

災害種別の確認
火事・救急の種別を区分し、位置情報により、通報者の大まかな位置を把握